

# ComicHTMLMaker

## 操作仕様書

version 2.01

### 更新履歴

日時	内容
20140825	新規作成
20140826	IE への対応について変更
20140827	誤字修正

# 1 ComicHTMLMaker とは

ComicHTMLMaker はディレクトリ内の画像をウェブブラウザで閲覧できるように HTML ファイルを作成するアプリケーションです。生成される HTML ファイル名は条件によって異なりますが、menu.html もしくは comic.html になります。また、サムネイルを作成するために temp.png を生成します。

この操作仕様書は ComicHTMLMaker version 2.01 についてのものです。それより前と後のバージョンについてはこの仕様書は対応していません。



図 1 ComicHTMLMaker version 2.01

## 2 使用方法

ComicHTMLMaker では、2つの動作方法があります。ひとつはディレクトリをドラッグドロップすることで処理を行う方法です。もうひとつは、起動した際に EXE ファイルが配置されたディレクトリを対象に、処理を行う方法 (以下、即時処理と呼称) です。デフォルトでは前者で処理を行うようになっています。

### 2.1 ドラッグドロップによる使用

この使用法は、処理を行いたいディレクトリを複数選んでから実行することができます。複数の箇所に点在したディレクトリを一度に処理したい場合に向いています。

### 2.2 即時処理による使用

この使用法では、EXE ファイルがおかれているディレクトリを対象として処理を行います。例えば、実行ファイルが~/favorite/comic/ComicHTMLMaker2.exe という場所に保存されていた状態で実行をした場合、ComicHTMLMaker はディレクトリ~/favorite/comic をドラッグドロップして処理を行った場合と同様の処理を行います。

#### 2.2.1 設定の変更

デフォルトでは即時処理は有効になっていません。そのため、この方法を使用するには設定の変更が必要になります。

まず、処理対象のディレクトリに ComicHTMLMaker の実行ファイルを配置して起動してください。その後、設定を行います。

設定の方法は右図 (2) のように、設定タブ内の最下部のチェックボックス (赤枠で囲ったもの) にチェックを入れます。チェックを入れた状態でウィンドウを閉じると、設定を保存するかどうか訊ねてくるので、「はい」を押して保存させます。次回以降、実行ファイルを起動すると即時処理が行われます。

■注意 設定を保存すると、ComicHTMLMaker2.cfg.dat が自動生成されます。このファイルには設定の内容が保存されているので、削除すると設定が取り消されます。

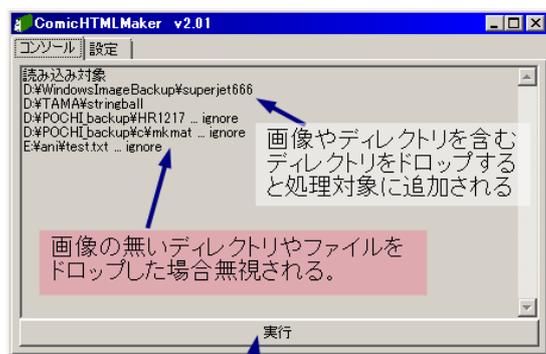


図2 ファイルをドロップしたときの画面

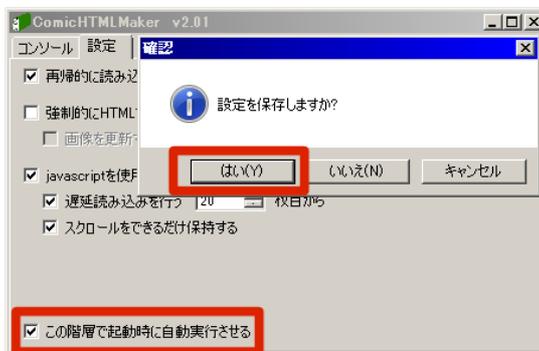


図3 即時処理のための設定

### 3 設定画面について

設定タブでは処理方法に幾つかのオプションを指定することができます。設定できる内容は以下のとおりです。

■再帰的に読み込む 処理対象のディレクトリが保持するディレクトリに対しても処理を行うようにします。

■強制的に HTML を更新する ComicHTMLMaker では出力するファイルが既に存在している場合、更新日時から上書きをするか出力をしないか判断します。このオプションを有効にすると、強制的に上書きをすることができます。

■遅延読み込みを行う 画像の読み込みを意図的に遅らせることで、スムーズにページを表示できるようにします。また、何枚目の画像から遅延をさせるか設定することができます。

■スクロールをできるだけ保持する ComicHTMLMaker で作成された HTML ではウェブブラウザのサイズに合わせて画像の大きさが変更されます。そのため、ブラウザのサイズ変更をするとスクロールの位置がずれてしまいます。このオプションを有効にすると、スクロールのずれをできるだけ保持するように動きます。このオプションは不完全です。また、ウェブ標準に準拠していません。確実にスクロールの位置が保持されるとは限りませんし、全てのブラウザで動作する保障はありません (Firefox 31, SRWare Iron 34, Internet Explorer 11 は動作確認済み)。



図 4 設定画面